



七松小学校 学校だより

平成30年度
8・9月号
尼崎市立七松小学校
学校長 森本秀子

☆ ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>



2学期を迎えて ～「何のため」を問う～

今年の夏は30度をはるかに超える気温が続き、日本各地で最高気温が塗り替えられました。テレビや新聞でも熱中症の話題が絶えませんでした。暦の上では秋ですが、まだまだ残暑が続きます。さて今年から8月の最終週が2学期の始業式となりました。校門に立って子どもたちを迎えると、日焼けしている子、体が大きくなった子、夏休みの作品を抱えている子、登校する一人ひとりが、笑顔と一緒に、挨拶をしてくれます。きっと、夏休みを家族と一緒に過ごし、様々な体験をし、思い出を作った充足感が、素敵な笑顔と挨拶を誘い出してくれたのだと思います。長い夏休み生活を、しっかりと支えてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。

さて、夏の話題といえば、100回目の節目を迎えた、夏の甲子園大会があげられますね。史上初、2度目の春夏連覇を成し遂げた大阪桐蔭(北大阪)。優勝には届かなかったけれど秋田県勢として第1回大会の秋田中(現秋田)以来、103年ぶりに決勝に進んだ金足農(秋田)。目標に向かって進む球児たちの熱いドラマが数多く生みだされました。中でも注目された選手の一人、大阪桐蔭の根尾 昂(ねお あきら)選手。移動中のバスでも、チームメイトが眠る横で本を手放さない。授業中も居眠りをしない。練習準備やグラウンド整備は下級生よりも先にいち早く行う。試合後はベンチの掃除も欠かさない。また夜中にストレッチをしたり、朝起きたら腹筋や腕立てをしたりと大変努力家です。両親は医者ですが、「プロを目指し、まだまだ基礎体力をつけなければ」とインタビューに答えた彼の好きな言葉は「継続は力なり」でした。人間力を磨くことの大切さ、「何のため」という目標を持つ人の強さを感じました。

2学期は体育大会を始め、音楽会やオープンスクールなどの行事が控えています。昔から基礎がしっかりしていないと、高い丈夫な建物は建たないと言われます。これは建物の話だけでなく、何事をするにも基礎がしっかりしていないとよい仕事はできないということだと思います。小学生の時期は、いろいろなことの基礎を作り上げる時期だと考えます。将来、自分が自立して生きていくための大切な基礎です。それは、簡単にすぐにはできるようになるものではありません。努力すること、続けることが大切です。子どもたちには、夢や目標をしっかりと持ち、「何のため」ということを常に問いかけ将来の自分のために努力を続けていってほしいと願っています。

教育実践家の森信三先生が「わが子を丈夫な子にする秘訣」についてお話された事を紹介します。

①腰骨をたてる・・・おしりをうんと後ろにひき(腰掛けにはもたれないように)、次に腰骨の中心に当たる辺をぐっと前へ突き出す。こうしていると内臓はいつも全開放で、胃も腸も肝臓も腎臓も活発により働く。その上に人間としての性根が入る。②甘いものを少なく・・・甘いものを食べると、歯が弱くなり、次に骨が弱くなり、根気の続かぬ人間になる。(出来るところから取り組んでみたいですね。)